

製本のススメ

Vol. 39

街には新緑で、新しいスーツを着た人も多く、ランドセルはピカピカで、春の街は新人で賑やかですね。さて先輩になった人は、後輩の指導と言う仕事が増えて、少々忙しいかな？誰かに教えると、自分の方が解ったりするのはよくある話。ここはひとつ踏ん張って頼られる先輩になりましょう。

前回の続き

今回は(企画のためのチェック)のお話

④ 良い品を作るという原点

今や短納期は当たり前となりましたが、時間短縮とコストダウンばかりが優先されて**使い易さ・堅牢さ、文章の読みやすさ等 軽んじられていないでしょうか？**句読点の位置や行間のバランス・色ベタの範囲等、データ支給という名目の下に、安易な印刷物も多くなりました。それに伴い製本で不具合が発覚し、作業が止まってしまう事も日常茶飯事です。**これによって一番困るのは、お客様(エンドユーザー)ですね。**

⑤ 企画時点でのシュミレーション

上製本を手がける会社の多くは、束見本というサンプルを必ず作ります。これは**作業上の不具合点や動作確認をする為**です。装丁材や本文の紙厚・綴り後のゆとりなどを、あらかじめチェックし材料や加工の手配を始めますが、**同様のチェックを印刷企画の段階で行っているでしょうか？**135kもの厚い用紙で16頁掛けを折れば、紙はどうなってしまうのか、是非が一目でわかる事と思います。パンチ穴が開く場合にはノド側まで写真があると、絵柄に穴が開いてしまいます。こういったシュミレーションが最初に行われていれば、大きなトラブルも無く、納品までスムーズですね。

⑥ 工程管理のゆとり

インクの乾く時間や製本等の加工時間 そして製品の移動時間など、それぞれに僅かながらも時間のゆとりが必要です。例えば印刷表面だけ乾いていても製本加工は出来ません。断裁作業では、紙がずれないように、かなりの圧力で押さえますので**乾きが甘いと「裏写り」の原因になります。**この圧力が弱いと、紙がずれて、きちんと断裁が出来ません。また紙折加工でも、同様に圧力がかかります。

工程管理に不可欠な事項の一つは「安全」と言う事も、考慮しましょう。



Tea break

4月に入り健康診断の季節となりましたね。今年からはメタボ検診も始まります。さて問題！人の身体の中で一番水分が多い場所はどこでしょう（膀胱を除く）お母さんのオッパイ？残念 答えは脳で85%が水分だそうです。脳は水浸しに近い状態にあるときに十分な機能を発揮するとか・・・アニメのようにカラン・カランと音がしては、いけませんね（笑）

by (株) 井関製本